

道道幕別帶広芽室線沿線

（清柳大橋から依田地区）の開発について

問 清柳大橋建設計画時からの懸案の課題であつた、清柳大橋から依田地区沿線の開発について、

町は第四期総合計画や都市計画マスター・プランの中に、雇用の拡大、町の活性化、町外への購買力の流出の歴止めの開発をすると明記し、

その土地利用について検討を重ねてきたが、現在、清柳大橋に隣接する50haについて、具体的に大型店舗出店を軸に開発計画があり、依田地区では、文京町に接続する工業団地西側の宅地開発計画がある。

町長が言う民間活力と町とのパートナーシップで、この沿線を開発する今が最大のチャンスである。

国や道が、現在コンパクトな町づくりの方針を出し、過疎化や高齢化、また、財政難で急速にコンパクトになつてきている町村を、それに輪をかけてコンパクトにしようとしているとき、町は

この地域の開発を緊急課題として、取り組みを急ぐ必要がある。

町長はリーダーシップを發揮し2期8年の締めくくりの仕事として、熱意をもつて取り組み実現すべきである。

この機を逃せば、この地域の開発はできなくなり、町や事業者の努力は無駄になり、将来の幕別町にとって大きな損失となる。

町内だけで、2,500名を超える賛同署名も提出されていると聞く。

町は急いでこの地域の開發を具体化すべきと思うがどうか。

的にはマスター・プランとの整合性が図られていると考えており、現在、事業者において大規模開発行為による手法のほか、市街化区域編入による手法も含め検討している。

今後、事業計画書が示され、道との協議が進み、計画が具体化された時点で関係の方々にも説明したい。

依田地区総合開発促進期成会から要望のある、リバーサイド幕別に隣接する西側の開発も、「都市計画マスター・プラン」では、一連の区域と位置付けしており、これに沿つた開発計画であれば、地形等を勘案しながらその用途について、今後検討する。

開発に向け、この区域一体が市街化調整区域で農業振興地域でもあり、法に基づく手続きや手順が必要になるため、今後関係する地権者とも協議し、具体的な開発計画が示される段階に

おいて、開発に向けての充分な検討をしたい。



道道幕別帶広芽室線の札内新道沿線

